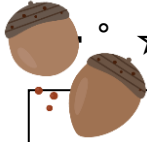




# みらいつうしん

10月号

2018年10月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 長南 康子



## 心を揺り動かしながら育つ子ども達

子ども達と生活していると時々「今日ね、泣いちゃったんだ、だって、〇〇だったから」と自分の思いを振り返るようにして、打ち明けてくれることがあります。また、「今日は泣かなかったけれど、本当はママとバイバイするのが淋しかったんだ」と、幼いながらも、自分の行動を客観視していることに驚きます。心をいろいろ揺り動かしながら生きているのだなとその健気を愛おしく思います。

気持ちは気持ちで、行動が伴わないことは大人もあります。葛藤することもたくさんあります。人としての歩みが、まだ極浅い子どもたちには、自分の気持ちを律することや周りに合わせようと行動を変えようとするなどに関して時間が必要です。言葉の獲得や理解力、見通しがもてるようになることなど、発達にそって、次第に思いをそのままに表すのではなく、その時々で、律し方を身に着けていけるようになるのだと考えます。

子ども達は、人と比べないで、私は私であることを認めてほしいと思っているでしょう。赤ちゃんの時は、笑いながら見ていてくれたのに、赤ちゃんの時はすべてを受け止めて包み込んでもらえたのに、少し大きくなると、「こうすることが当たり前」という大人の気持ちが先にきて、なかなか理解が得られず、気持ちに寄り添ってもらえなくなると感じていることでもあるのではないかと思います。その辛さも感じながら、たくましく乗り越えようとする子ども達を応援したくなります。

ものの感じ方は 私だけのもの。  
私の思い、僕の思いは ここにあることを受け止めてほしい。  
心の中は見えにくく、どうしたらよいのか、大人が思い悩むことはありますね。

思いを受け止められないまま、大人が正しいと考えることに従わせようと急ぎすぎると、時間もかかり、どこかで、ひずみが出てくることもあるのではないかと懸念します。



心に寄り添うことは、なかなか容易にはいきません。ただ、そばにいる、一緒にいる、同じことを楽しむということだけでも、子どもの思いに気づくこともあります。

地道に、根気強く、あなたのことが「好き」という思いで、まずは、子どもの心をそのままに表してもらえるようにすることも大切なのだと思います。

(長南)

大雨が降った雨上がりの園庭で、ぶどう組の子どもが虫を探していました。

お風呂マットの陰になにやら虫らしき影が。

一枚ずつめくっていき、最後の一枚をめくると…そこには大きなカエルが！

大喜びするかと思って

「わぁ！カエルがいたね！」と声をかけると、

「しめよ！ ねえ、しめよ！」と真剣な声

3匹もいたので、ちょっと怖かったようです。

保育者が勝手に子どもの思いを決めつけてはいけなかったと感じました。子どもの気持ちを察していく感受性をもちながら保育をしていく大切さを感じた一コマでした。

(主幹保育教諭 柳鶴)